

神戸大学学報

No. 132

1967.7. 庶務部庶務課発行



(医学部附属看護学校)

目 次

法令	2	等について	
○法律 ○政令 ○省令 ○訓令		○昭和42年度科学研究費補助金交付内定	
学内規則	2	○昭和42年度卒業者の就職および進学状況	
○神戸大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程		○昭和43年度大学院(修士課程)学生募集要項	
○神戸大学医学部附属看護学校長選考規程		○神戸大学組織図	
○神戸大学教養部規則の一部を改正する規則		研修等	30
○神戸大学大学院理学研究科規則の一部を改正する規則		○第1回学内監督者研修(J.S.T)	
○神戸大学理学部規程の一部を改正する規程		○昭和42年度給与実務担当者研修会	
○神戸大学医学部規則の一部を改正する規則		○昭和42年度国立大学設備担当技術職員研修会	
○神戸大学学位規程医学研究科細則		雑報	30
○神戸大学医学部附属病院諸料金規程		○昭和42年度全公レク共同事業神戸地区「ボーリング大会」の結果について	
人事	6	○昭和42年度学内「バドミントン大会」の結果について	
○異動 ○新役職員紹介 ○海外出張		受入刊行物一覧	30
学事	20	前号(No.131)訂正	30
○6月1日及び16日に施行された本学関係の法令			

法 令

◇法 律

法律第30号 国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律（42.6.2官報号外特第3号）

（要旨；外国旅行の旅費において、日当、宿泊料及び食卓料の額がそれぞれ増額された。また移転料についても鉄道キロメートルに応じて大巾に増額され鉄道2万キロメートル以上が新たに設けられた。）

—主計課—

◇政 令

政令第95号 文部省組織令の一部を改正する政令（42.5.31官報号第60号）

（要旨；初等中等教育局に次の9課（旧8課）を置くこととしたこと。財政課、地方課、初等教育課、中学校教育課、高等学校教育課、職業教育課、特殊教育課、教科書検定課、教科書管理課。大学学術局に次の11課（旧10課）を置くこととした。庶務課、大学課、技術教育課、教職員養成課、大学病院課、学生課、留学生課、学術課、国際学術課、研究助成課、情報図書館課。）

政令第117号 学術審議会令

（42.6.1官報号外特第2号）

（要旨；名称が学術奨励審議会から学術審議会に変わったこと。所掌事務のうち、「学術研究に関する組織、施設その他の研究体制に関する事項」が除かれたこと。委員が420人以内から80人以内になったこと。臨時委員は置かないこと。分科会が7分科会から学術研究基本方策分科会、学術研究体制分科会が除かれ、学術文献総合目録分科会が学術情報分科会に吸収され、合計4分科会になったこと。）

—以上庶務課—

◇省 令

文部省令第13号 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令

（42.5.31官報号外第3号）

（要旨；本学報学事欄参照のこと。）

—庶務課—

大蔵省令第32号 国家公務員等の旅費支給規程の一

部を改正する省令

（42.6.2官報号外特第3号）

（要旨；外国旅行移転料の算出において、水路で移転料の加算される港として、メキシコおよび中央アメリカ諸国地域のサン・ホセ港が追加された。また、陸路における加算は、距離に応じて分割された五区分にそれぞれの加算率が制定された。）

—主計課—

◇訓 令

文部省訓令第23号 国立大学の学部の附属病院及びその分院並びに附置研究所の附属病院に置く診療科を定める訓令（42.6.16官報）

文部省訓令第24号 国立大学の医学部の附属病院及びその分院に置く臨床検査等に関する部を定める訓令（42.6.16官報）

（要旨；以上本学報学事欄参照のこと。）

—以上庶務課—

学 内 規 則

◇神戸大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程

神戸大学自家用電気工作物保安規程（昭和41年10月1日制定）の一部を次のように改正する。

第20条第1項に次のただし書を加える。

ただし、医学部基礎校舎については、本学以外の設置する電気工作物と本学の設置する電気工作物との保安上の責任分界点は、受電室に於ける引込口に最も近く本学が施設せる区分開閉器の電源側端子とする。

同条第2項に次のただし書を加える。

ただし、医学部基礎校舎については、他の者が設置する電気工作物と本学との財産上の分界点は、受電室に於ける引込口に最も近く本学が施設せる区分開閉器とする。

別表第1を次のように改める。

附 則

この規程は、昭和42年6月1日から施行する。

（別表第1略）

◇神戸大学医学部附属看護学校長選考規程（趣 旨）

第1条 神戸大学医学部附属看護学校長（以下「学校

長」という。）の選考については、この規程の定めるところによる。

（選考の時期）

第2条 学校長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行なう。

- (1) 学校長の任期が満了するとき。
- (2) 学校長が辞任を申し出たとき。
- (3) 学校長が欠員となったとき。

第3条 学校長の選考は、前条第1号に該当する場合は、任期満了の日の1月以前に、同条第2号または第3号に該当する場合には、辞任の申し出のあったとき、または欠員となったときから1月以内に行なうものとする。

（選 考）

第4条 学校長は、医学部臨床医学講座専任の教授のうちから医学部長の推薦に基づき学長が選考する。

2 学校長候補者の推薦にあたり医学部長は、医学部教授会にはかるものとする。

（任 期）

第5条 学校長の任期は、2年とする。ただし、第2条第2号または第3号により選出された後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 学校長は、1回を限り再任されることができる。

（補 則）

第6条 この規程の施行について必要な事項は、医学部教授会の定めるところによる。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、昭和42年6月15日から施行する。

（任期の特例）

2 最初の学校長の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず昭和44年3月31日までとする。

◇神戸大学教養部規則の一部を改正する規則
神戸大学教養部規則（昭和39年3月19日制定）の一部を次のように改正する。

別表1のCの表中、

「（日本国憲法）」を
「（日本国憲法）」に改める。

附 則

この規則は、昭和42年6月15日から施行し、昭和42年4月1日から適用する。

◇神戸大学大学院理学研究科規則の一部を改正する規則

神戸大学大学院理学研究科規則（昭和40年4月1日

制定）の一部を次のように改正する。

第19条を第20条とし、第18条の次に次の1条を加える。

（聴講生）

第19条 特定の講義につき聴講を願い出たものについては、委員会の議を経て聴講を許可することがある。

2 聴講生志望者は、大学を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められた者に限る。

3 神戸大学理学部規程（昭和29年6月4日制定）の第17条（実験の履修）、第19条（入学手続）、第20条（聴講期間）、第21条（証明書）、第22条（実験費用）の規定は、研究科に準用する。

附 則

この規則は、昭和42年6月15日から施行する。

◇神戸大学理学部規程の一部を改正する規程
神戸大学理学部規程（昭和29年6月4日制定）の一部を次のように改正する。

第20条中「1学期間」を「1年以内」に、「聴講継続の希望のもの」を「聴講継続希望のあるもの」に改める。

附 則

この規程は、昭和42年6月15日から施行する。

◇神戸大学医学部規則の一部を改正する規則
神戸大学医学部規則（昭和39年5月20日制定）の一部を次のように改正する。

第14条の次に次の1条を加える。

（研究生）

第15条 研究生に関する規則は、別に定める。

附 則

この規則は、昭和42年6月15日から施行し、昭和42年4月1日から適用する。

◇神戸大学学位規程医学研究科細則

（趣 旨）

第1条 神戸大学学位規程（昭和35年10月27日制定。

以下「規程」という。）第21条の規定により、神戸大学大学院医学研究科（以下「研究科」という。）において規程の施行に必要な事項は、この細則の定めるところによる。

（在学者の論文提出）

第2条 研究科に在学する者が学位論文の審査を願い出るには、次の各号に掲げる書類および資料等を指導教授を経て研究科長に提出するものとする。

- | | |
|-------------|----|
| (1) 学位論文審査願 | 1通 |
| (2) 論文目録 | 2通 |
| (3) 学位論文 | 6通 |

- (4) 学位論文の内容要旨(おおむね4千字以内とする。) 35通
- (5) 参考論文があるときは当該論文 5通
- (6) 履歴書 2通
- (7) その他標本等審査のため必要とするもの
- 2 前項により学位論文を提出しようとする者は、研究科に3年以上在学し、指導教授の指定する学科目について40単位以上を修得していなければならない。(博士課程を経ない者の学位申請の資格要件)
- 第3条 規程第3条第2項の規定による学位を申請することができる者は、次の各号の1に該当する者とする。
- (1) 大学の医学部医学科を卒業した者で基礎医学部門においては5年以上、臨床医学部門においては6年以上(ともに実地修練期間を含まない。)の研究歴を有する者
- (2) 大学の医学部医学科以外を卒業した者については、7年以上の研究歴を有する者
- 2 研究歴となる期間が基礎医学、臨床医学の両部門にわたる場合は、基礎医学部門において3年以上の研究歴を有し、臨床医学部門の期間を合わせて5年以上の場合は、基礎医学部門における5年以上の研究歴を有するものとして取扱う。ただし、個々の研究期間が、基礎医学部門であるか、あるいは臨床医学部門であるかを区別しがたい場合は通算6年以上の研究期間を要するものとする。
- 3 前各項の研究歴とは次の各号に掲げるものとする。
- (1) 大学の専任職員として医学の研究に従事した期間
- (2) 大学院医学研究科を退学した者の在学中の期間
- (3) 本学医学部研究生として医学の研究に従事した期間
- (4) 研究科委員会において前各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間
- (博士課程を経ない者の論文提出)
- 第4条 博士課程を経ない者で学位を申請しようとする者は、次の各号に掲げる書類および資料等を指導教授または紹介教授を経て随時研究科長に提出するものとする。
- (1) 論文目録 2通
- (2) 学位論文 6通
- (3) 学位論文の内容要旨(おおむね4千字以内とする。) 35通
- (4) 参考論文があるときは当該論文 5通
- (5) 履歴書 2通

- (6) 最終学校卒業証明書(本学医学部卒業者は必要としない。) 1通
- (7) 研究歴に関する書類(本学医学部以外において研究に従事した者は指導者の証明を要する。) 1通
- (8) その他標本等審査のため必要とするもの。
- (学位申請者資格調査委員会)
- 第5条 第3条に定める資格を調査するため、研究科委員会に学位申請者資格調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。
- 2 調査委員会は、研究科長および研究科の各専攻課程の教授から各1名、計6名の委員をもって構成する。
- 3 研究科長以外の委員は、各専攻課程ごとに教授(研究科長を除く。)の互選によって決定し、任期は2年とする。
- 4 委員長は、研究科長をもってあてる。
- 5 調査委員会において必要があると認めるときは、委員以外の教授にも調査を委嘱することができる。(資格の判定および学位の申請)
- 第6条 研究科委員会は、調査委員会の調査の結果に基づいて、第3条に規定する資格を有するか否かについて判定する。
- 2 資格を有すると判定された者は、学位申請書2通に論文審査料1万円を添え、第4条の書類および資料等とともに研究科長を経て学長に提出するものとする。
- (審査委員)
- 第7条 規程第6条第1項に定める審査委員は、3名とする。
- 2 審査委員の選出は、研究科委員会において学位論文の内容要旨を配付したうえ3名連記無記名投票により行なう。
- (最終試験および試験の実施期日)
- 第8条 規程第7条に定める最終試験および規程第9条に定める試験は、原則として論文審査の終了後1月以内に行なう。
- (試問)
- 第9条 規程第10条第2項に定める学力確認の試問(以下「試問」という。)は、第7条第1項に定める審査委員が行なう。
- (試問の範囲)
- 第10条 試問は、研究科における学科目のうち、審査委員の定めるものおよび外国語について行なう。
- 2 審査委員は、学位申請者の経歴、論文の内容等を

考慮して、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、研究科における学科目以外の科目についても、試問を行なうことができる。

- 8 外国語についての試問は、学位申請者の願い出により、英語、ドイツ語およびフランス語のうち2種類について行なう。
- 4 学位申請者が外国人である場合の外国語については、日本語のほかに英語、ドイツ語およびフランス語のうち1種類を指定して行なう。
- (試問の範囲の決定および通知)
- 第11条 審査委員は、学位論文を受領したときは、すみやかに試問する科目および外国語の種類を決定し、学位申請者に通知する。
- (試問の実施期日)
- 第12条 試問は、原則として論文審査の終了後1月以内に行なうものとする。
- (論文の口演発表)
- 第13条 学位論文を提出しようとする者は、あらかじめ当該論文の内容を、本学医学部の学位論文発表会または学術集談会において発表し、その事項を履歴書に記載しなければならない。
- 2 学位論文発表会は、毎年2月、6月、9月および12月に開催し、学術集談会は、随時開催する。
- (その他)
- 第14条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は研究科委員会において定める。

附 則

この細則は、昭和42年5月17日から施行し、昭和42年4月1日から適用する。

◇神戸大学医学部附属病院諸料金規程

- 第1条 神戸大学医学部附属病院(以下「病院」という。)で徴収する診療等に関する料金等については、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令(昭和36年文部省令第9号)第10条の規定に基づき定められたこの規程によるものとする。
- 第2条 病院で徴収する診療等の料金は、次に掲げるもののほか、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(昭和33年厚生省告示第177号)の別表第1診療報酬点数表(甲)および別表第2歯科診療報酬点数表により算定した額とする。ただし、一点の額は10円とする。

(1) 入院時基本診療料

病室の等級別種類	給 料	金 額
特 等	A	普通室の料金に附加する額1人1日につき
	B	"
1 等	A	"
	B	"
	C	"
2 等	A	"
	B	"
	C	"
普 通 室		入院の日から起算して1月を経過しない期間1人1日につき
		入院の日から起算して1月以上3月未満の期間1人1日につき
		入院の日から起算して3月を経過した以後の期間1人1日につき

普通室の入院時基本診療料には、それぞれ基準給食加算額および基準看護加算額を含む。

- (2) 分娩介助料 1回 3,500円
- (3) 健康診断料 1回 180円
- (4) 文書料(法令に基づき無料で交付すべきものを除く。)
- 診断書料 1通につき 100円
- 死亡診断書(死体検案書を含む。)料 1通につき 200円
- 特殊診断書料 1通につき 300円
- 健康診断書料 1通につき 100円
- 証明書料 1通につき 100円
- 特殊証明書料 1通につき 300円
- (5) 薬剤容器料 1個 20円
- 2 社会保険・社会福祉等関係法令に基づく患者にかかる診療等に関する料金等は、前項に定めるところによるほか、当該法令の定めるところによる。
- 3 前2項の規定にかかわらず同規定により難しいものについては、そのつど学長が定める。
- 第3条 入院または退院当日の入院時基本診療料は、入院または退院時の時間にかかわらず、1日の料金とする。
- 2 転出した日の入院時基本診療料は、転入した室の料金とする。
- 3 入院中の患者が、病院長の許可を得て外泊した場合は外出した日の翌日から帰院の前日まで、その日の入院時基本診療料から、基準給食加算額および基準看護加算額を控除した額を徴収する。
- 4 普通室以外の室に患者収容定員をこえて入室させた場合の当該病室の各患者の入院時基本診療料は、当該病室の等級を相当等級に繰り下げた額を基準として、そのつど学長が定める。
- 第4条 外来患者にかかる診療等の料金は、原則として前納とし、入院患者にかかる診療等の料金は、毎月1日から15日までの分、および16日から末日までの分をそれぞれの期間が経過したとき、ならびに退院(転科を含む。)時に徴収する。
- 第5条 この規程の施行に必要な事項は、別に定める細則による。
- 附 則
- この規程は、昭和42年6月1日から施行する

人事

◇異動

庶務部

(人事課)

(6.1) 京都大学文部事務官

南木秀昭
神戸大学に転任させる

事務補佐員 林 修
事務員に配置換する

(6.26) 人事課長 大谷正明
文部省文化局文化課課長補佐に配置換する

(県立山口医大事務局次長)

木村蔵六
人事課長に採用する

経理部

(主計課)

(6.1) (口)文部事務官 山添 孝
主計課に配置換する

山根幸雄
事務員に採用する

(経理課)

(5.1) 柳川秀憲
用務員(作業員)に採用する

(6.1) 小嶋光雄
事務員に採用する

事務補佐員 友安委久子
5月31日限り退職した

長谷川和子
青木恭子

事務補佐員に採用する

施設部

(施設課)

(6.1) 友安委久子
技能員(電話交換手)に採用する
教育学部電話交換手に併任する
任期は昭和43年3月31日までとする

文学部

(6.20) 教授 猪野謙二
文学部長に併任する
任期は昭和43年6月19日までとする

教育学部

(6.1) (口)文部事務官 田中賢一
教育学部に配置換する

木下進
吉田日出夫

小栗誠
事務員に採用する

北爪節子

教務補佐員に採用する

(6.16) 大阪大学講師 山城正之
神戸大学助教授に昇任させる

法学部

(6.21) 戸沢信義
事務補佐員に採用する

(6.30) 第二課程掛長 西家英隆
辞職を承認する

(7.1) 文部事務官 来栖正直
第二課程掛長に昇任させる
事務補佐員 今雪信雄
事務員に配置換する

経済学部

(5.16) 富田和男
事務補佐員に採用する

(6.11) 庶務掛長 平野幸雄
休職にする
期間は昭和42年12月10日までとする

経営学部

(5.16) (口)事務補佐員 吉岡矜持
事務員に配置換する

(6.30) 助手 林貞子
辞職を承認する

理学部

(6.1) 山本晴茂
事務員に採用する

(6.16) 教授 橋本純次
理学部長に併任する
任期は昭和44年6月15日までとする

医学部

(5.1) 技術補佐員 石村定子
辞職を承認する

(5.16) 萬谷恵美子
加藤真里子
事務員に採用する

伊集院悦也
大池正勝

技能員に採用する

(5.31) 見習員 吉田寿幸
辞職を承認する

(6.1) (口)技術員 白井孝夫
医学部に配置換する

附属病院管理課に併任する

(神戸医大技師) 西村良子
文部技官に採用する

(神戸医大
診療補助員) 大池広子
文部事務官に採用する

(神戸医大
動物飼育員) 森山宮利
技能員(動物飼育員)に採用する

(神戸医大
自動車運転手) 山本允惟
技能員(自動車運転手)に採用する

柿原多恵子
技術補佐員に採用する

(6.10) 吉田一将
技術補佐員に採用する

(6.30) 講師 辰己庫太郎
助手 瀬尾明

辞職を承認する
文部技官 中村章子

辞職を承認する
(7.1) 助手 指方輝正

講師に昇任させる
上山堯碩
山本卓

助手に採用する
井上佳子

技能員に採用する

医学部附属病院

(6.21) 教授 遠藤中節
附属病院長事務取扱を免ずる
教授 辻昇三
附属病院長に併任する
任期は昭和44年3月31日までとする

診療科

(6.1) 教授 友松達弥
第一内科部長を命ずる

教授 辻昇三
第二内科部長を命ずる

教授 光野孝雄
第一外科部長を命ずる

教授 藤田栄
第二外科部長を命ずる

教授 柏木大治
整形外科部長を命ずる

教授 東条伸平
産科婦人科部長を命ずる

教授 浅井良三
耳鼻咽喉科部長を命ずる

教授 井街譲

眼科部長を命ずる

教授 黒丸正四郎

精神科神経科部長を命ずる

教授 平田美穂

小児科部長を命ずる

教授 植林和之

放射線科部長を命ずる

教授 佐野栄春

皮膚科部長を命ずる

教授 石神襄次

泌尿器科部長を命ずる

教授 麻田栄

麻酔科部長を命ずる

講師 祝原豊章

歯科部長を命ずる

講師 上羽康之

第一内科医局長を命ずる

(口)助手 酒井瑛

第二内科医局長を命ずる

講師 白方誠弥

第一外科医局長を命ずる

(口)助手 橋本兼太郎

第二外科医局長を命ずる

(口)助手 藤原朗

整形外科医局長を命ずる

講師 望月真人

産科婦人科医局長を命ずる

講師 志水雄輔

耳鼻咽喉科医局長を命ずる

(口)講師 井出俊一

眼科医局長を命ずる

(口)講師 岡田幸夫

精神科神経科医局長を命ずる

講師 坂井昌武

小児科医局長を命ずる

講師 西峯康雄

放射線科医局長を命ずる

(口)助手 中村立一

皮膚科医局長を命ずる

(口)助教授 友吉唯夫

泌尿器科医局長を命ずる

講師 石田博厚

麻酔科医局長を命ずる

助手 南川嘉昌

歯科医局長を命ずる

助手 猪尾 力

第一内科外来医長を命ずる

講師 小倉 一

第二内科外来医長を命ずる

講師 白方 誠 弥

第一外科外来医長を命ずる

講師 長谷川 一郎

第二外科外来医長を命ずる

助手 公文 裕

整形外科外来医長を命ずる

助手 新谷 毅

産科婦人科外来医長を命ずる

講師 志水 雄 輔

耳鼻咽喉科外来医長を命ずる

講師 下 奥 仁

眼科外来医長を命ずる

(医)助手 船 阪 和 彦

精神科神経科外来医長を命ずる

助手 宮 本 孝 三

小児科外来医長を命ずる

(医)助手 前 田 知 穂

放射線科外来医長を命ずる

講師 神 島 茂

皮膚科外来医長を命ずる

(医)助手 黒 田 清 輝

泌尿器科外来医長を命ずる

助手 一ツ町 泰 久

歯科外来医長を命ずる

(医)講師 福 崎 恒

第一内科病棟医長を命ずる

講師 新 光 毅

第二内科病棟医長を命ずる

助手 西 村 和 夫

第一外科病棟医長を命ずる

(医)助教授 中 村 和 夫

第二外科病棟医長を命ずる

助手 小 林 郁 男

整形外科病棟医長を命ずる

(医)助手 山 下 澄 雄

産科婦人科病棟医長を命ずる

(医)助手 細 見 英 男

耳鼻咽喉科病棟医長を命ずる

(医)助手 山 中 昭 夫

眼科病棟医長を命ずる

講師 岩 本 信 一

精神科神経科病棟医長を命ずる

(医)助手 大 石 康 男

小児科病棟医長を命ずる

講師 富 永 輝

放射線科病棟医長を命ずる

(医)助手 前 田 一 郎

皮膚科病棟医長を命ずる

(医)助手 大 島 秀 夫

泌尿器科病棟医長を命ずる

助手 中 西 孝 一

歯科病棟医長を命ずる

(6.16) (医)講師 桜 井 修

助教授に昇任させる

(6.30) 助手 黒 住 格 生

林 朋 生

辞職を承認する

7.1) 原 信 二

講師に採用する

金 沢 三 郎 之

本 田 雅 之

助手に採用する

中央診療施設

(6.1) (医)教授 黒 丸 正 四 郎

中央検査部長を命ずる

(医)教授 光 野 孝 雄

中央手術部長を命ずる

(医)文部技官

(衛生検査技師) 沼 野 征 子

附属病院に配置換する

(神戸医大

技師) 金 山 昭 平

" 高 見 寿 夫

" 三 原 克 之

" 亀 野 靖 郎

" 千 布 圭 子

" 池 田 ゆ り 子

" 山 田 英 治

" 米 沢 優 子

" 北 川 幸 子

" 奥 昕 子

" 淡 路 効 子

" 松 下 常 子

" 松 田 佳 子

" 吉 岡 昭 子

" 福 元 茂

(神戸医大

技師) 小 牧 謙 蔵

" 三 島 夫 美 子

" 小 林 道 子

" 飯 田 治

文部技官(衛生検査技師)に採用する

(神戸医大

技師補) 高 見 佐 登 美

" 時 松 房 代

" 浜 中 邦 子

技術員(衛生検査技師)に採用する

(神戸医大

技師) 小 畑 補 則

(神戸医大

技師補) 富 田 明 良

" 貴 傳 名 齊

" 掃 部 浩 一 郎

文部技官(医療検査員)に採用する

(神戸医大

技師補) 川 端 勉

" 花 田 文 雄

" 岩 井 猛

技術員(医療検査員)に採用する

(神戸医大

技師) 垣 鍬 房 穂

" 北 山 卓 弘

" 宮 村 有 三

" 尾 花 茂 樹

" 阿 部 健 三

" 高 橋 龍 児

" 福 川 孝

" 黒 木 明

" 阿 曾 一 雄

(神戸医大

技師補) 山 内 孝

" 相 江 康 弘

文部技官(診療エックス線技師)に採用する

(神戸医大

技師) 井 上 善 夫

文部技官に採用する

(神戸医大

技師) 松 尾 満 幸

" 三 宅 基 蔵

" 松 本 喜 代 次

文部技官(マッサージ師)に採用する

(神戸医大

技師) 日 高 俊 三

文部技官(歯科技工士)に採用する

(神戸医大

診療補助員) 田 中 照 子

事務員に採用する

(神戸医大

診療補助員) 山 本 昌 子

文部事務官に採用する

(神戸医大

用務員) 森 山 恵 美 子

用務員(作業員)に採用する

(神戸医大

見習員) 川 端 靖 子

技能員に採用する

尾 上 あ け み

金 沢 治

久 保 佳 子

宮 本 由 利 子

橋 本 勝 彦

久 保 博 亮

技能補佐員に採用する

谷 幸 子

事務補佐員に採用する

深 田 昭 夫

技術補佐員に採用する

(6.30) 技術員

(衛生検査技師) 高 見 佐 登 美

辞職を承認する

薬剤部

(6.1)

(神戸医大

技師) 米 沢 昭 三

" 前 田 静 昭

" 遠 藤 啓 三

" 木 村 定 子

" 御 上 美 子

" 石 垣 裕 子

" 野 上 裕 子

" 森 本 秀 子

" 福 田 京 子

" 宮 本 文 子

" 瀧 沢 保 子

文部技官(薬剤師)に採用する

(神戸医大

主事) 伊 丹 茂 子

(神戸医大)

見習員) 冠 崎 艶 子
" 大 前 恵美子

文部事務官に採用する

(神戸医大見習員)

横 山 恵津子

事務員に採用する

(神戸医大)

用務員) 新 谷 貞 子

" 岡 崎 信 子

用務員(作業員)に採用する

吉 田 孝 子

事務補佐員に採用する

魚 住 浩 子

条 路 子

竹 内 千恵子

鹿 谷 敦 子

関 房 子

藤 田 キミ子

小 野 俊 子

松 下 さかゑ

門 杉 香登子

技能補佐員に採用する

松 森 きさ代

臨時用務員に採用する

看護部

(6.1)

(神戸医大)

主任看護婦)

大 西 昭 子

" 佐 藤 久仁代

" 土 橋 艶 子

" 神 沢 利 子

" 山 崎 住 子

" 福 井 幸 江

" 松 浦 千 春

" 南 満 子

" 亀 村 敏 子

" 吉 松 清 子

" 政 木 萬里子

" 民 谷 真喜子

" 山 口 文 子

" 黒 川 スミエ

" 浅 井 昇代子

" 渡 辺 ひさこ

" 阪 上 ユリエ

" 神 原 昌 子

(神戸医大)

主任看護婦)

田 中 ヒロ子

松 下 タマヨ

高 木 栄 子

秋 田 宮 子

和 田 福 恵 子

田 路 美 子

真 弓 美代子

山 下 サナエ

伊 織 豊 子

森 光 久 子

詰 光 恒 子

水 田 ヨシエ

藤 井 よし子

横 山 年 子

柴 田 泰 子

中 村 泰 子

徳 網 あい子

森 田 清 子

宮 下 友 代

松 下 増 子

(神戸医大)

技師)

得 田 捨 子

川 本 絢 子

白 井 幾 子

石 原 あや子

藤 村 て智子

岡 上 アキエ

横 山 キミ子

池 田 かおる

草 壁 和 子

泉 誠 子

広 瀬 嘉寿恵

出 水 文 子

山 口 タツエ

松 下 素 子

寺 内 千鶴子

橋 本 和 子

池 上 多 喜

阿久根 イツ子

小 河 涌 子

小 西 和 子

山 本 圭 子

高 永 育 枝

(神戸医大)

技師)

大 野 光 江

横 内 千代子

恋 野 洋 子

村 山 貞 子

松 下 幸 枝

下 川 ミサエ

森 道 子

近 藤 成 子

今 村 八重子

山 下 フミエ

笠 井 礼 子

三 村 チヨノ

田 中 寿美子

門 脇 八重子

大 谷 欣 子

佐 藤 敏 子

立 花 泰 子

十 時 圭 子

瀬 島 敬 子

塩 谷 利 子

木 畑 梢 子

肥 後 玲 子

岡 本 とも子

有 本 潤 子

倉 光 房 江 子

村 上 朋 子

保 沢 滋 子

滝 野 寿 子

矢 野 美代子

世 良 節 子

竹 一 澄 子

西 野 薫 子

上 田 つをみ

岸 本 ゆり子

山 崎 孝 子

松 本 久 子

岡 田 カツミ

中 岩 孝 子

車 井 桂 子

平 井 明 子

小 童 陽 子

中 井 美 子

有 田 友 子

中 山 久 子

(神戸医大)

技師)

細 川 順 子

周 尾 邦 子

土 橋 真佐子

三 好 五百子

篠 原 裕 子

宮 脇 笙 子

藤 沢 文 子

川 端 一 子

木 山 与志子

菅 野 敦 子

畠 中 晶 子

山 本 常 子

瀬 島 まつ子

山 本 元 女

西 丸 明 子

中 舍 孝 子

牛 崎 久 子

森 本 きみ子

松 下 孝 子

(神戸医大)

技師補)

松 本 和 子

浅 井 裕 子

森 本 映 子

岡 本 美 佐子

青 木 芳 子

新 井 都 子

須 田 茂 子

山 田 ヨネ子

田 中 利 子

三 谷 淑 子

千 足 やす子

大 川 景 子

岸 本 延 子

伊 藤 正 市

栢 原 登代子

松 田 陽 子

小 森 長 子

富 谷 川 子

富 山 佳 子

松 田 靖 子

地 頭 林 子

小 竹 勢 子

津 田 美津子

(神戸医大)

技師補) 近 藤 聰 子
 // 兼 本 登紀子
 // 平 生 幸 子
 // 宮 川 七海子
 // 下 田 敦 子
 // 垣 内 和 江代
 // 三 輪 春 代
 // 福 原 きよ子
 // 西 沢 洋 子
 // 倉 持 淑 子
 // 福 原 洋 子
 // 近 森 恵美子

文部技官(看護婦)に採用する

(神戸医大)

技師補) 功 刀 イク子
 // 木 村 繁 美
 // 伊 達 素 子
 // 堀 江 貴代子
 // 増 浦 幸 恵子
 // 敦 賀 陽 子
 // 武 田 章 子
 // 竹 中 幸 子

技術員(看護婦)に採用する

(神戸医大)

技師補) 松 岡 久太郎

文部技官(准看護人)に採用する

(神戸医大)

技師補) 杉 本 あけみ
 // 若 狭 トミ子
 // 西 本 愛 子
 // 新 見 絹 代
 // 水 船 ひ ろ
 // 平 尾 利 子
 // 海 本 千鶴子
 // 井 上 澄 子
 // 高 松 都
 // 戸 高 寿美子
 // 金 沢 すみ子
 // 村 吉 幸 子
 // 山 田 富 子
 // 安 田 より子
 // 川 端 貞 子
 // 西 村 かをり
 // 森 隆 子

(神戸医大)

技師補) 細 見 益 子
 // 木 村 慶 子
 // 神 戸 博 子
 // 瀬 川 清 子
 // 後 藤 サカエ
 // 藤 原 美代子
 // 山 上 月 枝
 // 兵 頭 タツヨ
 // 田 中 チヨ子
 // 忽 那 征 子
 // 松 浦 フジ子
 // 近 盛 洋 子
 // 山 子 ひで子
 // 藤 原 春 恵子
 // 岡 田 幸 子
 // 栗 田 由喜恵
 // 大 西 信 子
 // 関 本 貞 子
 // 大 坪 継 子
 // 石 原 美恵子
 // 小 林 美都子
 // 的 場 貴 子
 // 向 原 京 子
 // 木 下 慧
 // 伊 藤 美智子
 // 齊 藤 征 子
 // 高 橋 信 子
 // 森 本 テルコ
 // 藤 原 多恵子
 // 中 島 千鶴子
 // 中 村 ヒデミ
 // 矢 野 登美子
 // 岩 沢 信 子
 // 古 林 賀代子
 // 戎 初 枝
 // 藤 永 節 子
 // 八 木 笙 子
 // 小 椋 文 枝
 // 溝 田 和 子

文部技官(准看護婦)に採用する

(神戸医大)

技師補) 安 田 治 代
 // 関 みさほ
 // 藤 原 サカエ

(神戸医大)

技師補) 西 国 八千子
 // 有 馬 八重子
 // 松 本 友 香
 // 田 坂 澄 子
 // 中 本 ユリ子
 // 平 良 正 子
 // 岡 本 良 子
 // 石 場 絹 恵
 // 坂 口 多寿子
 // 田 中 信 子
 // 中 ツルエ
 // 加 藤 カナエ
 // 石 飛 寿 子
 // 立 石 テル子
 // 横 田 和 美
 // 遠 藤 富 恵
 // 松 村 津枝子
 // 大 西 秀 子
 // 岩 田 洋 子
 // 梅 本 広 子
 // 渡 辺 スエコ
 // 山 出 和 子
 // 山 本 則 子
 // 井 田 博 子
 // 木 村 明 子
 // 長 畑 千代子
 // 秋 山 朝 子
 // 加 藤 みどり
 // 国 沢 朝 子
 // 駒 井 陽 子
 // 平 野 二三子
 // 中 川 富美子
 // 真 砂 茂 子
 // 原 美智江
 // 島 田 京 子
 // 平 瀧 子
 // 永 井 博 美
 // 井 上 由 喜
 // 矢 野 礼 子
 // 藤 田 啓 子
 // 藤 本 倫 子
 // 津 房 ヨシ子
 // 財 田 育 子
 // 伴 野 啓 子

(神戸医大)

技師補) 永 野 美 保
 // 吉 田 ノリ子
 // 渡 辺 順 子
 // 木 内 志津子
 // 石 山 敬 子
 // 中 村 すず子
 // 久 保 文 代
 // 田 中 恵美子
 // 児 玉 愛 子
 // 久 保 清 美
 // 立 花 公 子
 // 三津山 悦 子
 // 野 口 可代子
 // 角 田 ケイ子
 // 森 岡 花 子
 // 竹 内 節
 // 浜 田 知賀子
 // 宮 内 恵美子
 // 野 村 五 月
 // 脇 本 和 栄
 // 伊 井 玉 江
 // 橋 本 邦 子
 // 橋 本 勝 子
 // 山 中 恵美子
 // 山 本 湧 子
 // 杉 本 栄
 // 森 初 美

技術員(准看護婦)に採用する

(6.6) 看護婦

改姓

(6.1)

池 間 順 子

技術補佐員に採用する

桜 谷 きん子
 夷 谷 克 子
 新 川 ウメ子
 三 浦 けい子
 北 中 信 子
 難 波 靖 子

技能補佐員に採用する

(神戸医大)

診療補助員) 今 村 喜代市
 // 秋 田 広 治
 // 和 田 かや子
 // 中 垣 咲 子

(神戸医大

診療補助員) 杉本 憲政
 " 能登原 郁子
 " 津田 千賀子
 " 小田 峰子
 " 吉井 祐子
 " 堀 節雄
 " 小原 宮子
 " 市川 由紀子
 " 広中 チヨノ
 " 水岡 喜久美
 " 神行 美智子
 " 竹沢 美智子
 " 席定 昌子
 " 山本 カズエ
 " 中道 直枝
 " 宮島 加津子
 " 莊村 公子
 " 市来 京子
 " 野田 絹代
 " 村上 信子
 " 山本 絹代
 " 横野 博美
 " 上垣 正美
 " 西山 裕美

技能員(看護助手)に採用する

(7.3) 文部技官(看護婦)

川本 絢子

辞職を承認する

事務部

(管理課)

(6.1) 明石工業高等専門学校文部技官

近藤 利定

神戸大学に転任させる

(文部事務官) 塚田 利信

(文部事務官) 生田 多加雄

(文部事務官) 松田 幸子

(人事務員) 平井 孝行

(文部事務員) 島居 邦生

(文部事務員) 森岡 宏明

(文部技官(自動車運転手))

杉本 友夫

管理課に配置換する

明石 靖彦

(神戸医大主事) 北山 弘美

" 岩崎 つるゑ

(神戸医大

主事補) 熊元 重久

" 北田 都

" 森次 敬典

" 萩野 千代子

" 岡田 澄子

" 小青 和美

" 貴地邦 文乃

(神戸医大

見習員) 荻野 寿

文部事務官に採用する

(神戸医大技師) 河内 克弘

文部技官に採用する

井上 正

藤谷 良雄

磯野 定夫

田中 繁

(神戸医大

主事補) 芳崎 隆夫

" 片田 啓一郎

" 増田 繁一

" 田口 穎作

(神戸医大

タイピスト) 大城 美代子

事務員に採用する

(神戸医大

技師補) 菅野 慎一

" 菅野 康博

技術員に採用する

(神戸医大自動車

運転手) 大畑 庸次

" 梶木 忠男

技能員(自動車運転手)に採用する

(神戸医大

機関員) 浅野 了三

" 中原 弥八

" 岡多 秀雄

" 新屋 保

" 真野 蔵

文部技官(汽かん士)に採用する

(神戸医大

機関員) 政辻 薫

" 甲斐 哲雄

(神戸医大見習員)

山上 収

(神戸医大用務員)

池田 順英

技能員(汽かん士)に採用する

(神戸医大工技員)

佐野 公德

(神戸医大

用務員) 広見 昭

藤井 勝

技能員(工務員)に採用する

(神戸医大

電話交換員) 坊野 一枝

" 千葉 きみゑ

" 山添 都由

" 高橋 寿恵子

" 内田 はるみ

文部技官(電話交換手)に採用する

(神戸医大

電話交換員) 吉岡 松枝

" 東田 須美子

" 奥原 久

久保田 治子

井上 洋子

技能員(電話交換手)に採用する

(神戸医大

保安員) 中尾 良隆

" 岩本 隆

(神戸医大

保安員) 長井 美義

" 高橋 紘一

" 稲上 健人

(神戸医大

給食員) 吉田 勇三

用務員(警務員)に採用する

(6.16)

谷口 房枝

文部事務官に採用する

(業務課)

(6.1)

(神戸医大主事) 井上 爾子

" 杉本 茂子

" 木村 富貴子

" 前田 直弘

" 小川 保寛

" 中村 康子

" 石本 芳子

(神戸医大

主事補) 藤本 幸男

" 山本 紘子

" 町田 秀子

" 橋本 徳子

" 溝淵 貴美子

" 山本 フミ子

" 南谷 千栄子

" 村上 紀代美

(神戸医大

見習員) 野田 弘子

" 西橋 美恵子

(神戸医大調理員)

平田 栄美子

文部事務官に採用する

辻本 恭司

石坂 清史

藤原 義夫

(神戸医大

主事補) 村上 朝子

" 田村 照代

" 渡辺 英秋

" 高橋 健

(神戸医大)

主事補) 小島正充
 " 河地邦子
 " 岡林和昭
 " 河田基彰
 " 小畑昌司
 " 小井畑和彦
 " 西村信子
 " 東喜佐雄
 " 井嶋智子
 " 角本妙子
 " 福本春代
 " 三金康宏
 " 林英司
 " 片山栄子
 " 谷口公雄
 " 山川幸一
 " 浜田幾雄
 " 平山三雄
 " 松岡実夫
 " 山中昌昭
 " 荒木律子
 " 西山衛子
 " 藤尾淳子
 " 松原八千代
 " 米田啓一
 " 下地幸平
 " 長尾隆子
 " 山見純子
 " 浅々木寛
 " 奥見美智子

(神戸医大)

見習員) 中島則子
 " 竹山純子

事務員に採用する

(神戸医大)

洗濯員) 米田実信
 " 米田正春
 " 米田佳男
 " 荒井慧

用務員(洗濯員)に採用する

(神戸医大)

用務員)
 " 小谷みさる
 " 中川タケノ

(神戸医大)

用務員) 植田松枝
 " 長谷川スエ
 " 中谷はる子
 " 南千代子
 " 大西なみえ
 " 柏原ヒサ子
 " 田中つたえ
 " 岡田朝江
 " 野瀬善子
 " 上木トシエ
 " 中道タマヨ
 " 亀井やゑ子
 " 藤本雅枝
 " 若原すゑ子
 " 伊藤乃木子
 " 小村シヅ
 " 谷本清一
 " 恩藤春子
 " 森山節子
 " 岡田朝子
 " 杉尾よね子
 " 新谷あさの
 " 筒井きしゑ
 " 上垣歌子
 " 樽谷静子
 " 中川ふじの
 " 伊藤功朗
 " 桃谷恵朗
 " 谷満佐江

用務員(作業員)に採用する

(神戸医大)

技師) 尾崎睦子
 " 沢純子

(神戸医大)

技師補) 梅村節子

文部技官(栄養士)に採用する

(神戸医大)

調理員) 永原 栄

文部技官(調理員)に採用する

(神戸医大)

調理員) 山田縫子
 " 辻朝子
 " 福本みさる
 " 横道紀伊子
 " 松岡はる子

(神戸医大)

調理員) 内山英一
 " 小川好助
 " 川端珉子
 " 高寄歌子
 " 足立みつ子
 " 石見二三江
 " 加藤秀一
 " 美馬行雄
 " 奥田ちよ子
 " 元己生
 " 粟科ミヨ
 " 松下月子
 " 岡田昌子
 " 山本武彦
 " 沢田幸子
 " 藤原博
 " 大川祥子
 " 直島タツ子
 " 千寿昭子

技能員(調理員)に採用する

(神戸医大)

給食員) 山崎利子
 " 竹原重忠
 " 福田枝美子
 " 水田清香
 " 柳香代

技能員(給食員)に採用する

(神戸医大)

給食員) 石井しま
 " 黒原清
 " 下里まつゑ
 " 湊山かね子
 " 上田三重子
 " 大畑マサエ
 " 中瀬清美
 " 岡田ツルエ
 " 片岸千恵子

用務員(給食員)に採用する

山本貴子
 去来川嘉代
 岡本治三

事務補佐員に採用する

和住昭治
 数多福次
 北見六郎
 今久留主トミ子
 西本明子
 中田みや子
 秦良信

臨時用務員に採用する

(6.9) 臨時用務員 北見六郎

辞職を承認する

医学部附属看護学校

(6.1) (厚生女子専門学院

教務主任) 田中文子

講師に採用する

教務主任を命ずる

(厚生女子

専門学院技師) 徳山琴子

" 高橋美智

講師に採用する

(因)文部技官 中島美絵子

附属看護学校講師に配置換する

奥野義正

事務補佐員に採用する

(7.1) (因)教授 植林和之

附属看護学校長事務取扱を免ずる

(因)教授 浅井良三

附属看護学校長に併任する

工学部

(5.1) 秦 美佐子

事務補佐員に採用する

(6.1) (経事務員 福田信也

工学部に配置換する

今津清

小林茂

事務員に採用する

農学部

(附属農場)

- (6.1) 農教授 佐伯 秀章
附属農場長事務取扱を命ずる
農助教授 長谷川 清三郎
農助手 尾崎 武
" 南条 巖
附属農場に配置換する

教養部

- (5.20) 明石 吉亮
用務員(作業員)に採用する
(6.1) 農事務員 野上 清博
教養部に配置換する
江本 一行
事務員に採用する
(6.30) 事務補佐員 伊藤 タカ子
辞職を承認する
(7.1) 菅野 孝三
講師に採用する

附属図書館

- (4.1) 庶務部長 伊部 勤
附属図書館事務長事務代理を命ずる
(6.16) 山路 妙子
事務補佐員に採用する
(医学部分館)
(6.1) (神戸医大主事補) 池川 敏
事務員に採用する
(教養部分館)
(6.16) 中村 直美
事務補佐員に採用する

経済経営研究所

- (5.15) 河本 二美恵
事務補佐員に採用する
(6.1) 事務補佐員 藤田 寛
事務員に配置換する

▶ 新役員紹介 ◀

* 文学部長 (昭和42年6月20日付発令)

教授 猪野 謙二(再任)

* 理学部長 (昭和42年6月16日付発令)

教授 橋本 純次(再任)

* 医学部附属病院長(昭和42年6月21日付発令)



教授

辻 昇三

(明治39年4月4日生)

略歴

(学歴)

昭和 5. 3

東京帝国大学医学部卒業

(職歴)

- 昭和 5. 4 東京帝国大学医学部副手
" 10. 1 京都帝国大学医学部副手
" 10. 8 医学博士(京都帝国大学)
" 14. 2 京都帝国大学医学部講師
" 18.12 任陸軍司政官
" 23.10 兵庫県立医科大学講師
" 23.12 兵庫県立医科大学助教授
" 27. 2 神戸医科大学助教授
" 32. 3 神戸医科大学教授
" 40. 4 神戸大学医学部教授
" 41. 4 神戸大学評議員

* 医学部附属看護学校長(昭和42年7月1日付発令)



教授

浅井 良三

(明治39年3月24日生)

略歴

(学歴)

昭和 5. 3

京都帝国大学医学部卒業

(職歴)

- 昭和 5. 4 京都帝国大学医学部附属病院副手
" 6. 9 京都帝国大学助手
" 8. 4 依頼免本官
" " 医学部講師嘱託
" 18.12 京都帝国大学医学部助教授
" 34. 2 神戸医科大学教授
" 41. 4 神戸大学医学部教授

* 人事課長(昭和42年6月26日付発令)

木村 誠六

(大正2年1月2日生)

略歴

(学歴)

昭和 10. 3 京都帝国大学法学部卒業

(職歴)

昭和 11. 1 兵役

◇ 海外出張

◎ 出張

所 属	官 職	氏 名	出 張 先	出 張 目 的	出張期間	出張中の居住地
経済学部	助 手	豊田 利久	アメリカ合衆国、カナダ	技術進歩と経済成長に関する理論的・計測的研究のため	42.6.16 ~ 43.8.31	46 Midge House Carnegie Institute of Technology Schenley Park, Pittsburgh, Pa. 15213 U. S. A
医学部	助 手	香川弘太郎	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国に於ける一般整形外科の実修並びに調査研究のため	42.6.21 ~ 43.6.30	The Swedish Hospital 1212 Columbia Street, Seattle Washington 98104
"	教 授	友松 達弥	インドネシア	インドネシア国医学事情視察のため	42.6.22 ~ 42.7.12	在インドネシア日本大使館 Djakarta, Indonesia
"	教 授	白井 陽一	インドネシア	インドネシア国医学事情視察のため	42.6.22 ~ 42.7.12	在インドネシア日本大使館 Djakarta, Indonesia
"	教 授	堀田 進	ソ連邦、ドイツ連邦共和国、連合王国、アメリカ合衆国	ソ連アカデミー主催の第13回科学会議に出席し演題発表並びにソ連、ドイツ、連合王国、アメリカ合衆国において熱帯ウイルス学の討議のため	42.6.22 ~ 42.7.31	
医学部 附属病院	講 師	上羽 康之	アメリカ合衆国、メキシコ、スペイン、フランス、連合王国、デンマーク、ドイツ連邦共和国、スイス、イタリア、アラブ連合、香港	米国コロラド大学にて、心収縮における交感神経系の関与についての研究及び欧州各国大学研究施設の視察研究のため	42.6.24 ~ 43.7.31	University of Colorado Medical Center 4200 East Ninth Avenue, Denver, Colorado 80220 U. S. A
医学部	助 手	森川 定雄	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国ピッツバーグ大学麻酔学教室において重症患者管理室、手術後回復室等の管理及び臨床研究のため	42.6.25 ~ 43.7. 3	Pittsburgh, Pennsylvania 15213, U. S. A

◎ 帰 朝

所 属	官 職	氏 名	出 張 先	出 張 目 的	帰 朝 日
法学部	教 授	国 歳 胤 臣	南西諸島(沖縄)	琉球大学における商法Iの講義を行なうため。	42. 5.31
法学部	教 授	嘉 納 孔	オーストリア、イタリア	南チロル問題の研究	42. 6.29

-庶務課-

学 事

◇ 6月1日および16日に施行された本学関係の法令等について

※国立学校設置法、同施行令、同施行規則関係

(1) 本学の職員の定員が

学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	教 諭	養 護 教 諭	その他 の職員	計
1	275	270	40	240	76	3	1,354	2,259

に改められ、4月1日に施行されたときよりも合計において755人の増加があった。これは後述する医学部附属病院が設置された結果の大巾増である。

(2) 本学医学部に附属病院および附属看護学校が、農学部附属農場が新たに設置された。

(3) 附属病院の診療科に科長を、臨床検査、手術、放射線診療等の部を置き、それぞれに部長を置くことが定められた。

(4) 事務局の部及び課ならびに厚生補導に関する部の課を置くことについては、文部大臣が別に定めることになった。

※国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令

本学の経済経営研究所の研究部門に「経営計測」が加えられ合計7部門になった。

※国立大学の事務局等の部及び課に関する訓令

旧国立学校設置法施行規則第28条第2項及び第3項が改められた結果制定されたものであるが、今後の事務局、学生部、附属病院の部及び課の名称は、この訓令によることとなった。本学でこの訓令により変わったことは、医学部附属病院設置に伴い、同病院の事務部に管理課および業務課が置かれることになったこと。

※国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令

本学関係では、文学部、教育学部、経済学部および医学部の講座等が下記のとおり改められた。

文学部	イギリス文学及 アメリカ文学	代数学及び幾何学	機械
哲学科	英語学	解析学及び応用数 学	食物学
西洋哲学	ドイツ語学及び ドイツ文学	数学科教育	被服学
西洋哲学史	フランス語学及び フランス文学	物理学	農業
芸術学	中国学	化学	水産
芸術史	言語学	生物学	職業科教育
理論社会学	教育学部	地学	英語学
経験社会学	小学校教員養成課程・ 中学校教員養成課程・ 養護学校教員養成課 程	理科教育	英米文学
倫理学	国語学	音楽	英語科教育
科学思想史	国文学	器楽	異常児心理
心理学	書道	作曲	異常児の保健
史学科	歴史学	音楽理論・音楽史	教育学
日本史学古代中世	地理学	絵画	教育史
日本史学近世	法律学	彫塑	教育制度
東洋史学古代中世	政治学	構成	教育社会学
東洋史学近世	倫理学	美術科教育	教育心理学
西洋史学古代中世	社会科教育	体育実技	発達心理学
西洋史学近世		生理学及び衛生学	社会教育
地理学		学校保健	
文学科		体育理論・体育史	経済学部
国語学		木材加工	(第1課程・第2課程)
国文学		電気	経済学科
国文学近代			○理論経済学
			○国民経済学

○社会経済学
○数理経済学
○経済学史
○国際経済学
○貿易政策
○金融経済論
○国際金融論
○経済地理
○経済史
○各国経済史
○外国経済論
○外国経済各論
○経済政策原理
○工業政策
○農業政策
○社会政策
○財政学
○統計学原理
○経済統計学

医学部

医学科

○解剖学第一
○解剖学第二
○生理学第一

備考：○印は博士講座、ゴシック体文字は学部名ま

たは改正点をあらわす。

○生理学第二
○生化学
○薬理学
○病理学第一
○病理学第二
○微生物学
○衛生学
○公衆衛生学
○医動物学
○法医学
○内科学第一
○内科学第二
○外科学第一
○外科学第二
○整形外科
○産科婦人科学
○耳鼻咽喉科学
○眼科学
○精神神経科学
○小児科学
○放射線医学
○皮膚科学
○泌尿器科学
○麻酔学

※国立大学の学部の附属病院及びその分院並びに附
置研究所の附属病院に置く診療科を定める訓令
本学医学部附属病院の診療科に次の15科を置くこ
とが定められた。

神戸大学

医学部附属病院

第一内科
第二内科
第一外科
第二外科
整形外科
産科婦人科
耳鼻咽喉科
眼科
精神科神経科
小児科
放射線科
皮膚科
泌尿器科
麻酔科
歯科

※国立大学の医学部の附属病院及びその分院に置く
臨床検査等に関する部を定める訓令

本学医学部附属病院に「検査部」および「手術部」
を置くことが定められた。

一庶務課一

◇昭和42年度科学研究費補助金交付内定

本年度の科学研究費補助金交付内定者が決った。これを過去3ヶ年についてみると下表のとおりとなり、応募
件数は平均して増加の途をたどっているものの、採択件数の伸びは少なく、今後一層の伸展を期待したいもので
す。

種 類	年 度	応 募 数	採 択 数	種 類	年 度	応 募 数	採 択 数
特 定 研 究	40年度	6 件	2 件	ガン特別研究	40年度	1 件	0 件
	41	8	3		41	1	0
	42	8	3		42	4	0
各 個 研 究	40	142(29)	26(3)	総 合 研 究	40	10	6
	41	157(21)	29(4)		41	14	5
	42	193(14)	31(2)		42	11	6
機 関 研 究	40	10	3	試 験 研 究	40	6	2
	41	14	6		41	9	4
	42	17	6		42	10	4

なお、各個研究のうち、()数は、神戸医科大学から申請し、採択時には本学に移管になった教官の件数を
示し外数である。

各研究分野の研究担当者、研究課題等は次のとおりである。

◎特定研究

審査希望 部 門	課題番号	区 分	研 究 課 題	研究担当者 氏 名 所 属 職 名	配 分 希望額	配 分 予定額
生物物理	954069	特定研究(2)	オン・ライン・シミュレーション による脳神経機構の研究	須田 勇 医学部 教授	5,800円	8,200円
日本近代化	957020	特定研究(2)	日本社会の近代化過程における法 と政治の諸問題 ― その特異的展 開を中心に	園 藤 麻 法 学 部 教 授	4,088	1,700
日本近代化	957021	特定研究(2)	海上交通における近代化の研究～ 近代的海運・造船・港湾の生成と 発展過程～	佐々木誠治 経済経営 研究所 教 授	1,940	1,300
合 計				3 件	11,828	6,200

(応募総数 8件)

◎各 個 研 究

部	課題番号	研 究 課 題	研 究 担 当 者			配 分 希 望 額	配 分 内 定 額
			氏 名	所 属	職 名		
1	11015	Hegel哲学における市民社会論の研究	清水 正徳	文学部	助 教 授	300円	150円
1	11245	演劇におけるリアリズムの基礎とその方法 —日本演劇における近代化問題と関連して—	辻部政太郎	文学部	教 授	210	100
1	11366	脳障害の知能構造の分析	伊藤 隆二	教育学部	助 教 授	382	170
1	11664	義務教育以後の教育制度に関する比較研究	高木 太郎	教育学部	教 授	150	100
1	12134	明清時代の貨幣流通と貨幣政策 —特に清初後半期を中心として—	百瀬 弘	教養部	教 授	300	120
1	12203	近代史学思想史の研究 —とくに西欧歴史思想の比較研究—	吉武 夏男	教育学部	教 授	300	140
1	13070	沖縄における叙事詩及び劇詩の研究	永積 安明	文学部	教 授	154	120
1	13207	第18世紀前半イギリス文学者集団の統計的研究	宮崎 芳三	文学部	助 教 授	400	150
1	13208	ミルトン批評史研究	黒田健二郎	教育学部	助 教 授	100	100
2	22016	議会制民主政治における対外政策形成過程に関する実証的研究	川端 末人	教育学部	助 教 授	173	130
3	32048	交通業における収益性・経済性ならびに生産性測定に関する研究	松田 和久	経営学部	教 授	300	140
3	32051	イギリス公企業展開過程の理論的・実証的研究	佐々木 弘	経営学部	講 師	155	70
3	32052	ダイグラフの理論とマルコフ連鎖理論の接合によるマーケティング行動の構造と過程の数学的研究	田村 正紀	経営学部	助 手	200	70
4	401102	位相半体の解析学への応用	井関 清志	理学部	教 授	400	150
4	405438	$\beta\beta$ - β 置換—ステレン類の幾何異性体について	渡会 節夫	教養部	講 師	130	130
4	407159	植物細胞壁の代謝及び伸張性に関する研究	和田 俊司	理学部	助 手	460	300
5	51137	イオン照射による固体表面反応の研究	永田 三郎	工学部	教 授	330	300
5	51141	cds単結晶の不安定性領域中の物性的研究	山本 恵一	工学部	助 手	420	120
5	52468	圧力容器の弾塑性変形	進藤 明夫	工学部	教 授	500	330
5	55530	海岸埋立地附近の地下水流の研究	田中 茂	工学部	教 授	310	290
5	55548	我が国において行なわれたガードフェンス実物実験結果の再検討	枝村 俊郎	工学部	助 教 授	350	250
5	56253	鋼構造骨組の地震応答と耐震設計に関する研究	堯天 義久	工学部	教 授	280	200
5	59499	ゴム及び高分子ブレンド物の薄膜の表面圧測定	渡辺 禎三	工学部	教 授	300	280
6	63315	熱処理木材の性質に関する研究	浜口 隆	教育学部	講 師	177	100
7	710182	小脳プルキンエ細胞の発射機序	高比良英輔	医学部	助 教 授	500	250
7	710379	Na,K-dependent ATPase の作用機構の研究	依田 篤信	教養部	助 教 授	485	240
7	710969	頭蓋底輪状骨折に関する研究	溝井 泰彦	医学部	教 授	419	200
7	720115	下垂体前葉ホルモン放出因子 (Releasing Factor: RF)に関する研究	辻 昇三	医学部	教 授	490	270
7	720437	人工弁移植後の血行動態に関する臨床的研究	麻田 栄	医学部	教 授	478	270
7	720959	Prenatal & Perinatal Pediatricsに関する実験的研究—特に核黄疸と低酸素症について	松尾 保	医学部	講 師		130
7	721206	低音性難聴に関する研究	服部 浩	医学部	助 教 授	480	250
7	721369	多糖類の抗原性—主として病巣感染と皮膚結合組織病変の関係について	佐野 榮春	医学部	教 授		270
8	82011	近代初期における機械論と原子論との関係	青木 靖三	教養部	助 教 授	200	100
合 計						9,833	5,990

備考 1. 応募総数 193件
2. 内定件数33件のうち2件は移管によるもの。

◎機 関 研 究

審 査 希望部門	課題番号	種 類	研 究 課 題	研 究 担 当 者			配 分 希 望 額	配 分 予 定 額
				氏 名	所 属	職 名		
物理系	91391	A	極低温における物性の研究	神田貞之助	理学部	教 授	9,800円	9,800円
化学系	91392	A	表面活性構造を有する金属酸化物の物性に関する研究	井上 嘉典	工学部	教 授	6,065	5,500
物理系	92294	B	交通線返し荷重による路床、路盤土の動的特性に関する研究	谷本 喜一	工学部	教 授	1,835	1,530
生物系	091349	継続	細胞の生長分化における遺伝情報発現機構に関する生化学的並びに生物物理学的研究	須田 省三	理学部	教 授	400	400
物理系	192276	継続	構造物の塑性疲労に関する研究	山田 稔	工学部	教 授	900	900
化学系	192278	継続	金属キレート化合物の性質と結合様式に関する研究	土橋 正二	理学部	教 授	460	460
合 計							19,460	18,590

(応募総数 17件)

◎総 合 研 究

部	課題番号	研 究 課 題	研 究 代 表 者			補 助	配 分
			氏 名	所 属	職 名	希 望 額	予 定 額
1	1229	西洋都市発達史の総合的研究	森田 鉄郎	文学部	教授	2,000円	1,000円
3	3003	国際金本位制の現段階における国際的ならびに国内的信用創造およびその乗数的効果の理論的・実証的研究	矢尾 次郎	経済学部	教授	2,810	1,200
3	3004	対外援助の理論と政策に関する研究	藤井 茂	経済学部	教授	3,950	1,000
3	3034	会計基準に関する研究	久保田音二郎	経営学部	教授	4,100	2,200
4	4084	藻類における種の分化に関する実験分類学的研究	広瀬 弘幸	理学部	教授	5,123	2,120
7	7031	自然止血機構の研究	岡本 彰祐	医学部	教授	4,230	2,120
合 計						21,713	9,640

(応募総数 11件)

◎試 験 研 究

部	課題番号	研 究 課 題	研 究 代 表 者			補 助	配 分
			氏 名	所 属	職 名	希 望 額	予 定 額
社会科学	10039	パースナリティ発達の縦断的研究	高橋 省己	教育学部	教 授	550円	420円
社会科学	10107	塩業における経営労働組織と地域構造 —兵庫県・播州塩田の場合—	杉之原寿一	文 学 部	助教授	836	500
工 学	54035	建設公営用振動計の試作	畑中 元弘	工 学 部	教 授	1,100	950
工 学	55008	室内音響の模型実験に関する研究	前川 純一	工 学 部	教 授	1,570	800
合 計 4 件						4,056	2,670

(応募総数 10件)

—庶務部—

◇昭和41年度卒業者の就職および進学状況

昨年卒業生の動向について5月1日現在で調査しました結果を、次のような区分に集計しましたので、今後の参考資料として活用して下さい。

(A) 進路別卒業者数

[illegible]

(B) 職業別就職者数

[illegible][illegible]

(C) 産業別就職者数

卒業後の状況	学部等 男女別	文学部			教育学部			法学部			法学部 第二課程		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
A 農 業													
B 林 業・狩猟業								1	0	1			
C 漁 業・水産養殖業													
D 鉱 業													
E 建設業		1	0	1				1	0	1			
F 製造業	1 食料品製造業				0	1	1	4	0	4	1	0	1
	2 繊維工業	1	0	1	0	1	1	2	0	2			
	3 衣服その他の繊維製品製造業												
	4 出版・印刷・同関連産業	3	1	4	1	3	4	2	0	2			
	5 化学工業				0	1	1	2	0	2			
	6 石油製品・石炭製品製造業							3	0	3			
	7 鉄 鋼 業	0	1	1				2	0	2	1	0	1
	8 非鉄金属製造業												
	9 金属製品製造業				1	0	1	1	0	1			
	10 機械製造業	0	1	1	1	0	1	3	0	3			
	11 電気機械器具製造業												
	12 輸送用機械器具製造業				1	0	1				2	0	2
	13 測量機械・医療機械等製造業												
	14 上記以外の製造業	2	1	3				1	0	1			
G 卸小売業	1 卸 売 業	2	3	5	1	0	1	11	0	11			
	2 小 売 業	2	0	2				2	0	2			
H 金融・保険業	1 銀行・信託業							21	0	21			
	2 証券業・商品取引業				0	1	1	1	0	1			
	3 保 險 業							11	0	11			
	4 上記以外の金融・保険業							2	0	2			
I 不動産業								1	0	1			
J 通信業	1 運 輸 業	0	4	4				5	0	5	1	0	1
	2 通 信 業	1	1	2							3	0	3
K 電気・ガス・水道業								1	0	1			
L サービス業	1 医療保険業												
	2 法 務				1	0	1				2	0	2
	3 教 育	16	14	30	74	130	204	2	0	2			
	4 宗 教												
	5 非営利的団体	0	1	1	2	1	3						
	6 上記以外のサービス業	3	3	6	1	0	1						
M 公務	1 国 家 事 務	0	1	1	1	0	1	1	0	1	7	0	7
	2 地 方 事 務	2	1	3	2	1	3	3	0	3	18	0	18
上記以外のもの					24	19	43	1	0	1			
合 計(就職者=(a)+(b))		33	32	65	110	158	268	84	0	84	35	0	35

経済学部			経済学部 第二課程			経営学部			経営学部 第二課程			理学部			工学部			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
																		1	0	1
						1	0	1										1	0	1
2	0	2				3	0	3	2	0	2				47	1	48	56	1	57
3	0	3	1	0	1	1	0	1	1	0	1							12	0	12
7	0	7				7	0	7	1	0	1				2	0	2	21	0	21
1	0	1										2	0	2	1	0	1	10	4	14
12	0	12	1	0	1	20	0	20				3	0	3	12	0	12	51	1	52
2	0	2				1	0	1							1	0	1	7	0	7
6	0	6	1	0	1	4	0	4	2	0	2				13	0	13	29	1	30
2	0	2	2	0	2	1	0	1							4	0	4	9	0	9
2	0	2	1	0	1	2	0	2	3	0	3				2	0	2	12	0	12
4	0	4	3	0	3	9	0	9	2	0	2				21	0	21	43	1	44
7	0	7	1	0	1	11	0	11	1	0	1	2	0	2	46	0	46	68	0	68
7	0	7				5	0	5	2	0	2				18	0	18	35	0	35
									1	0	1				3	0	3	4	0	4
4	0	4	1	0	1	11	0	11	2	0	2	5	0	5	12	0	12	38	1	39
33	0	33	1	0	1	23	0	23	15	0	15				1	0	1	87	3	90
						4	0	4	3	0	3							11	0	11
38	0	38	2	0	2	31	0	31	2	0	2							94	0	94
						4	0	4	1	0	1							6	1	7
14	0	14	1	0	1	16	0	16										42	0	42
									1	0	1							3	0	3
1	0	1													4	0	4	6	0	6
9	0	9	1	0	1	6	0	6							2	0	2	24	4	28
															4	0	4	8	1	9
			1	0	1	1	0	1							5	0	5	8	0	8
																		3	0	3
												1	1	2	2	0	2	95	145	240
																		2	2	4
						1	0	1	3	0	3	6	2	8	2	0	2	16	5	21
			6	0	6				1	1	2							16	2	18
			14	0	14				13	0	13				15	0	15	67	2	69
																		25	19	44
154	0	154	37	0	37	162	0	162	56	1	57	19	3	22	217	1	218	907	195	1,102

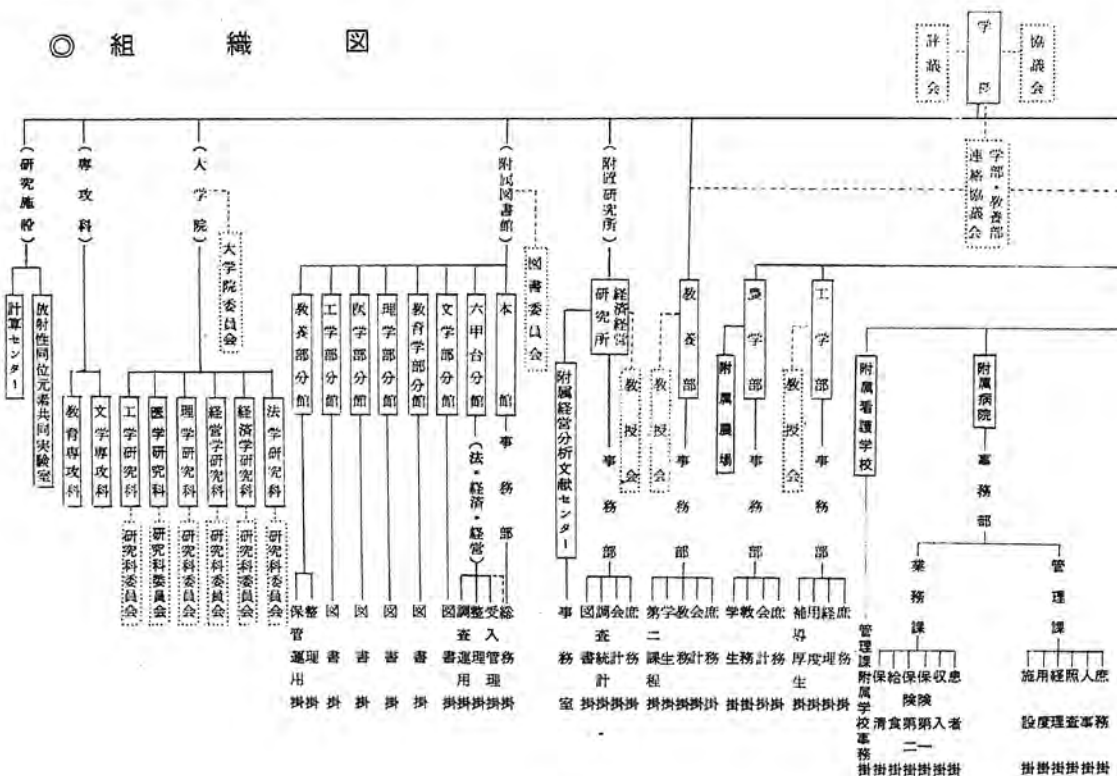
◇昭和43年度神戸大学大学院（修士課程）学生募集要項

研究科	専攻	募集人員	願書受付期間	合格者発表	備考
法学研究科	私法専攻	22名	昭和42年9月11日(月) ～ 9月18日(月)	昭和42年10月14日(土)予定 法学部の掲示場に掲示する とともに、本人に通知する。	第1次選考 (第2次選考は明年3月の予定)
	公法専攻	16名			
経済学研究科	経済学・経済政策専攻	若干名	昭和42年8月14日(月) ～ 8月26日(土)	昭和42年9月14日(休) 本研究科掲示場に掲示する とともに本人にも通知する。	特別選考 (普通選考は明年2月の予定)
	国際経済専攻	若干名			
経営学研究科	経営学・会計学専攻	約24名	昭和42年8月24日(休) ～ 9月7日(休)	9月22日(金)本学掲示場に掲示 するとともに、郵便にて 本人に通知する。	特別選考 (普通選考は明年2月の予定)
	商学専攻	約16名			
理学研究科	数学専攻	約8名	昭和42年9月1日(金) ～ 9月9日(土)	昭和42年9月27日(休) 午後5時ごろ 理学部掲示板上に発表の予定	
	物理学専攻	約10名			
	化学専攻	約8名			
	生物学専攻	約8名			
工学研究科	建築学専攻	10名	昭和42年8月15日(休) ～ 8月31日(休)	昭和42年9月8日(金)の午前 工学部学生通用玄関前に掲 示し本人にも通知する。	
	電気工学専攻	10名			
	機械工学専攻	14名			
	土木工学専攻	10名			
	工業化学専攻	8名			
	計測工学専攻	8名			

◇神戸大学組織図

昭和42年4月 事務局に施設部が、大学院に医学研究科が、農学部事務局に教務掛および学生掛が置かれ、すと次のとおりになります。

◎ 組 織 図



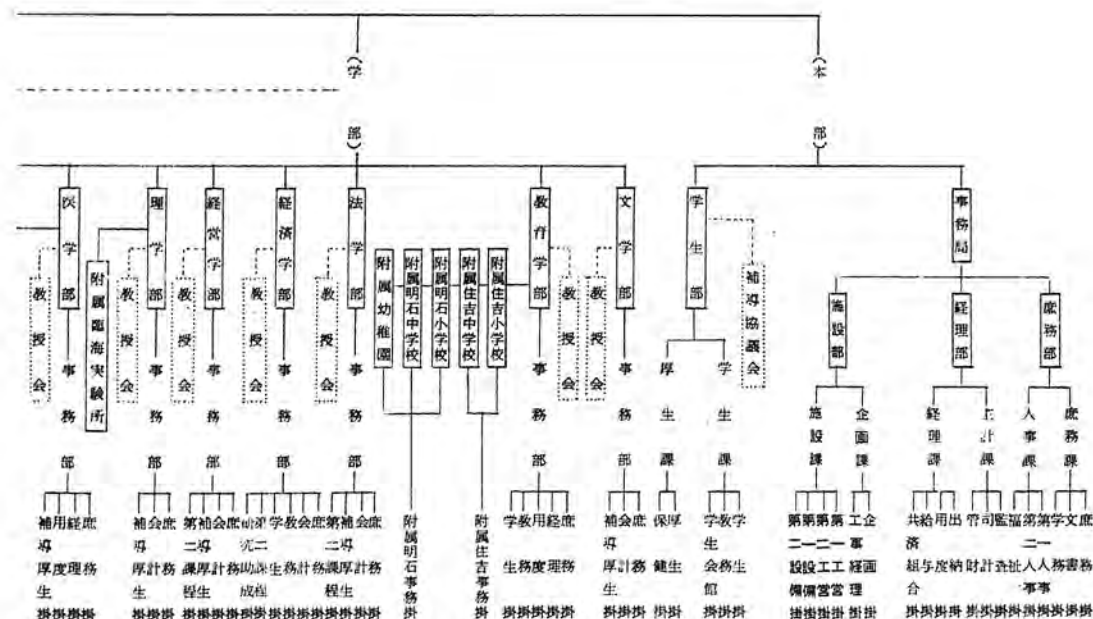
学力試験日程

研究科	月 日	午 前	午 後
法学研究科	10月4日(水)	外国語 9.30～11.30	論文 1.00～3.30
	10月5日(木)	口頭試問および健康診断 9.30より	
経済学研究科	9月11日(月)	英語 9.20～10.50	健康診断 1.00～3.00
		独語、仏語、中国語、露語のうち一科目選択 11.00～12.30	
	9月12日(火)	面接 9.30～5.00	
経営学研究科	9月14日(木)	論文 9.00～12.00	外国語 1.00～3.00
			面接 (診断書による審査の結果特に必要と認められる者に対して健康診断を行なう。)
	9月15日(金)	専門科目 9.00～12.30	外国語 1.30～3.30
理学研究科	9月25日(月)	専門科目 9.00～12.30	外国語 1.30～3.30
	9月26日(火)	面接の時間は、学力試験終了後教官から通知し、併せて掲示する。 健康診断は、証明書により再診を必要とするもののみ行なり。日時、場所は別に本人に通知する。	
工学研究科	9月4日(月)	外国語 10.00～12.00	専門科目(一) 1.00～4.00
	9月5日(火)	専門科目(二) 9.00～12.00	口頭試問及び健康診断 1.00～4.00

※博士課程については、おって掲載の予定。

—学生課—

更に6月には、医学部に附属病院および附属看護学校が、農学部附属農場が置かれたのでこれを図表に示



—庶務課—

研修等

- ◇第1回学内監督者研修(J.S.T.)
- 期 間：6月20日(火)～23日(金)
 - 場 所：法学部会議室(ただし、2日目は第二会議室)
 - 指導員：人事院近畿事務局
第一課長 松井 勉
第二課長 浜野新次
 - 受 講 者

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長 補 佐	杉本伊太良
教育学部	経 理 掛 長	江口 庸平
附属明石校	事 務 掛 長	岸 茂
法学部	庶 務 掛 長	宮武 寿六
経済学部	研 究 助 成 掛 長	藤原 稔
経営学部	第 二 課 程 掛 長	天野 宏一
理学部	庶 務 掛 長	島田 和夫
医学部	補 導 厚 生 掛 長	坂元 昌朗
工学部	補 導 厚 生 掛 長	神林 誠
農学部	教 務 掛 長	河原 宏
教養部	学 生 掛 長	大島 留衛
"	第 二 課 程 掛 長	生島 幸夫
"	整 理 掛 長	田中 雄三
"	保 管 運 用 掛 長	宮崎 憲司
研究所	附 属 経 営 分 所 文 献 セ ン タ ー 主 任	溝口 重雄
図書館 六甲台分館	受 入 管 理 掛 長	辻本 和央

- ◇昭和42年度給与実務担当者研修会
- 期 間：7月3日(月)～5日(水)
 - 会 場：法学部163号教室
 - 受講者：32名
 - 目 的：給与実務事務全般についての基礎的研修を行ない、給与事務の適正な運用を確保する。
 - 主 催：人事院
- ◇昭和42年度国立大学設備担当技術職員研修会
- 期 間：7月4日(火)～7日(金)
 - 会 場：国立教育会館
 - 受講者：施設課第一設備掛 角田正夫
" 第二設備掛 船戸義広
 - 目 的：国立学校の施設整備に従事する職員として、必要な知識技能を修得させることを目的とする。
 - 主 催：文部省

—以上人事課—

雑 報

- ◇昭和42年度全公レク共同事業神戸地区「ボーリング大会」の結果について
- 日 時：6月20日(火)
 - 場 所：三宮ボーリングセンター
 - 結 果： 優 勝 長田税務署 (B)
準優勝 長田税務署 (A)
第三位 神戸大学 (B)
- ◇昭和42年度学内「バドミントン大会」の結果について
- 日 時：6月24日(土)午後1時から
 - 場 所：教養部体育館
 - 結 果： 優 勝 教養部 (A)
準優勝 " (B)
三 位 工学部

—以上人事課—

受入れ刊行物一覧

月 日	刊 行 物 名	発 行 者 等	所 管
6. 5	関東短期大学紀要	関東短期大学	図書館
"	高知大学一覧(昭和41年度)	高知大学	庶務課
"	博士学位論文	大阪大学	図書館
6.10	Universid Ad le La Habana	ハバナ大学	"
"	Vida Universitaria	"	"
6.12	信州大学教育学部紀要	信州大学教育学部	"
"	特定研究(災害科学)研究報告集録	災害科学総合研究班	庶務課
"	北見工業大学要覧(昭和42年度)	北見工業大学	"
"	お茶の水女子大学要覧、英文概要(昭和41年度、1967)	お茶の水女子大学	"
6.14	東京女子体育大学紀要	東京女子体育大学	図書館
6.16	甲南大学職員録(昭和42年度)	甲 南 大 学	庶務課
6.22	武蔵野女子大学紀要	武蔵野女子大学	図書館
6.23	滋賀大学職員録(昭和42年度)	滋 賀 大 学	庶務課

◇前号(No.131) 訂正

頁	欄	行	誤	正
8	右	13行目	研究科等	研究科、学科等
15	出発の表中	3行目	「ドイツ」の点をとる。	
"	帰朝の表中	5行目	第41回	第4回